

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04836

研究課題名（和文）中学校国語科・論理的な表現力を育成する教材の開発

研究課題名（英文）Development of the teaching materials promoting the logical power of expression in junior high school Japanese classrooms

研究代表者

長谷川 祥子（hasegawa, sachiko）

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：40708179

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）： 中学校国語科における論理的な表現力を育成する教材の開発を研究した。これまでの作文の指導法は、文学的表現に価値を求めていた。今後は、論理的な表現力が重要になると考え、論理的文章を書く学習指導を対象とした。論理的文章を書くための教材集を2種類開発した。2校の中学校でこれらを使用し、成果と課題を検討した。教材を修正した後、教材集の改訂版を作成し、地域の教育センター等に発送した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は中学校国語科における論理的文章を書くための教材を、科学論文の書き方に照らして提案した。現行の中・高等学校国語教科書の書くための単元・教材や、「書くこと（作文）」のワーク等を検討した結果、文章構成の示し方や、段落・事実の書き方の説明が課題があった。課題の多くは、2018PISAの読解力の問題点等と一致している。課題等を補うために「論理的表現力を育成する教材集」と「国語・論理の教材集」の2種類を作成し、2校の中学校での検証授業を行い、学習の成果を確認することができた。

研究成果の概要（英文）： I studied the development of the teaching materials promoting the logical power of expression in junior high school Japanese classrooms. The past composition instruction demanded value from literal expression. I thought that logical power of expression became important in future, and I intended for learning instruction to write a logical sentence. I developed two kinds of collections of teaching materials to write a logical sentence. I examined result and a problem using these at school in two schools. After having revised the teaching materials, I made the revised edition of the collection of teaching materials and sent it out to the local education center.

研究分野：国語教育

キーワード：論理的な表現力 中学国語科の「書くこと」の教材 教材集の開発 論理的思考力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 中学校国語科の指導上の課題

2016(平成28)年8月に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」が示され、中学校国語科では「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること」などに課題があるとされた。このような課題の背景に、次のような授業の実態があると考えている。文学作品(「走れメロス」「故郷」等)の解釈の指導に重点を置き、発表やグループ交流、討論など時間を要す活動を組み込んでいる。その結果、授業時数がとられ、「話す・聞く」単元や「書く」単元は省略しがちとなる。このような文学的文章を重視した授業を変えていく必要が求められている。

(2) 2018年3月告示の高等学校学習指導要領国語の科目構成

「(1)」の報告では「高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていないこと」等が課題として示されている。こうした課題の解決を図るために、共通必修科目として「現代の国語」「言語文化」、選択科目として「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」を設定している。高等学校国語の科目構成の改訂で、高校入試が変わり、中学校国語も変わると考え、科目構成の改訂は今後の小・中学校国語の変わるべき方向をも提示していると捉えている。

(3) 論理的文章教材に関する先行研究の検討

渋谷孝(1999)は戦前から戦後の論理的文章教材を分析し、1999年当時、新しい情報教育の実践が模索され、「説明文」も一つの情報を与え、学習者が調べる学習の資料の一つになっている(『説明文教材の新しい教え方』明治図書、40)。しかしながら、戦前に指導された従来の考えから解放されていないと述べている。従来の考え方とは「文章を読んで、分かるということは、言葉としての語彙、語句、文章の意味を学者の体験的な知識(または認識)と対応させること」である。十数年前の渋谷孝の言及が国語科の授業で十分に取り入れられていたならば、全国学力・学習状況調査等での結果も現在とは異なっていたであろう。

(4) これまでの研究

「(1)」で示した問題を解決するには、論理的文章を書くときの学習事項の再検討が必要であると考え、論文の書き方指導書の援用を仮定し、数十冊の書籍を検討した。その結果、田中潔の著書『実用的な科学論文の書き方』(裳華房、1983年)と、『手ざわよい科学論文の仕上げ方 第2版』(共立出版、1994年)が優れていると判断している。これら2冊は、論理的文章の構成要素や、パラグラフの役割を端的に規定し、章ごとの書き方の原則を示している。また、事実を記述するという具体的事例の書き方を、例を豊富に挙げて説明している。田中潔の考えに従い、論理的文章の不可欠な要素を「文章構成・パラグラフ(段落)とキーワード・事実の書き方」とした。

2016年度版(現行)中学校国語教科書(5社15種の論理的文章の新しい教材について、前述の「文章構成・パラグラフ(段落)とキーワード・事実の書き方」で評価した。論理的文章教材は新しく37編(中学1年9編、2年12編、3年16編)が掲載されている。これらのうち、論理的に書く学習に活用できる教材は5編(中学1年2編、2年2編、3年1編)であった。他の新教材は最新の話題提供を重視した文章や、言葉で展開する文章で、論理的に書く学習に

は応用しにくいと考えた。これらの検討から、教科書教材以外の発展的、あるいは補助的な教材が必要であると導いている。

2．研究の目的

本研究では中学校国語科における論理的文章の教材開発を目的とした。現行の教科書教材の検討を踏まえ、系統的に学習できる論理的文章教材の開発、教材集の作成、実際の指導の成果等を研究の対象とした。全国学力・学習状況調査等の結果では、ここ数年繰り返し論理的に表現することが課題となっており、授業改善が必要であるといわれている。文章表現するためには、「読むこと」の学習が基盤となる。中学校国語の授業で教科書教材の学習の他に、継続的に学習できる発展的あるいは補助的な教材集を開発していく。

3．研究の方法

中学校の国語科の論理的文章を書くための教材を開発するにあたり、次の3点を研究の方法とした。

- (1) 中・高等学校国語教科書の「書くこと」の単元・教材や、「書くこと(作文)」に関するワーク等について、科学論文の書き方指導書に照らして検討する。
- (2) 論理的に表現する力を育成するための「書くこと」の学習指導を提案する。
- (3) 中学校国語科で論理的文章を書くための教材を作成し、研究協力者等に授業実践を依頼し、教材の成果等を検証する。

4．研究成果

(1) 中・高等学校国語教科書の「書くこと」の課題
中・高等学校国語教科書の「書くこと」の単元や教材を科学論文の書き方指導書に照らして調べたところ、次のような傾向がある。

論理的文章を書くための教材を巻末資料として配置しているが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域との関連が明確でない。

教科書の中には「論証・反論・論理的な読み方」等、論理の学習に重点を置き、論理的思考の組み立ての一部を習得できるものがある。

文章構成を確認できる教材は複数あるが、段落や事実の書き方を説明している教材が少ない。

全学年で「推敲の観点」を確認できる練習教材が必要である。

(2) これまでの「書くこと(作文)」に関するワーク等の検討

「書くこと(作文)」に関するワーク等は数多く出版されているが、その多くは小学生が対象である。これは中等教育での「書くこと(作文)」の体系的な研究・報告の少なさに起因している。

中学生が書く論理的文章とは、日常生活を対象にして、そこから筆者の考えを基に事実を複数取り出し、その事実から考察や結論を導く過程を表現した文章と想定している。このように考えると、その書き方では科学論文の書き方が示唆を与えてくれる。

前述の科学論文の書き方指導書で学んだ内容を生徒の読み方・書き方指導に援用すると、「文章構成・パラグラフ(段落)とキーワード・事実の書き方」が学習事項として設定できる。

中学生が論理的文章を「書く」とき、以下に挙げた、1990年以降の「書くこと(作文)」のワーク等は現在でも学習の成果が期待できる。特に、以下の「」のワーク等は学習の成果が顕著であるとし、「」を付している。

- 言語技術の会編（1990）『実践・言語技術入門-上手に書くコツ・話すコツ』朝日選書
 輿水実監修、風間章典・国語スキル研究会編（1990）『文章読解の基本スキルワーク』明治図書（『国語スキルブック』読解編1～6年（光文書院、1963年刊）からの転載）
 輿水実監修、風間章典・国語スキル研究会編（1991）『作文の基礎力をつける基本スキルワーク』明治図書（『作文のスキルブック』1～6年（光文書院）からの転載）
 大森修・新潟言語技術の会編著（1992）『思考を鍛える作文技術ワーク』明治図書
 さざなみ国語教室、吉永幸司・森邦博編著（1992）『作文の基礎力を育てる短作文ワーク』明治図書
 岩手作文技術研究会（1992）『基礎技能を鍛える作文ワーク』明治図書
 野口芳宏編著（1994）『楽しく力がつく作文ワーク 小学6年』明治図書
 大阪府教育センター編（1997）『興味・関心・意欲を持たせながら「書く力」を伸ばす短作文指導のアイデア』明治図書
 村野聡（1999）『作文技術をトレーニングする作文ワーク集』明治図書
 大森修編（2004）『医学と教育との連携で生まれたグレーゾーンの子どもの対応した作文ワーク・上級編2～中学生向け～』明治図書
 甲斐睦朗監修、豊田国語サークル編著（2005）『ことばの力を身につける おもしろ体験ワーク 中学校編』明治図書
 三森ゆりか（2005）『徹底つみ上げ式子どものための論理トレーニング・プリント』PHP研究所
 堀江祐爾編著（2010）『書く力がぐんぐん伸びる！「言葉のワザ」活用ワーク』明治図書
 大熊徹編著（2015）『書く力・考える力が育つ10分間ミニ作文ワーク 4～6年』明治図書
 工藤順一、他著（2018）『〈新版〉これで書く力がぐんぐんのびる!!』合同出版

(3) 論理的に表現する力を育成するための「書くこと」の学習指導の提案

前述の(1)、(2)を踏まえ、論理的な表現力を育成する「書くこと」の学習計画等を次のように提案する。単元名、単元の目標、学習計画は以下のとおりである。本単元を年に数回設定する。

【単元名】「論理的文章を書く」（中学1年から3年まで共通）

【単元の目標】 科学論文の構成を備えた文章を書く。

一段落一事項の原則に沿って、段落を構成する。

複数の具体的事例とそれらに共通する性質とを記述する。

【単元の学習計画】4時間扱い

第1時 1 論理的文章の書き方プリントを読む。

2 小論文書き方ワークに「考察・具体的事例1・2」のキーワードを書く。

3 黒板で添削され、評価を受ける。

第2時 4 論理的文章の書き方プリントを読む。

5 原稿用紙に「具体的事例1・具体的事例2・考察」を各1行の文（一次原稿）で書く。

6 黒板で添削され、評価を受ける。

第3時 7 推敲プリントを通して、推敲・評価の観点を知る。

8 少し詳しい文章（二次原稿）を書く。

9 黒板で添削され、評価を受ける。

- 第4時 10 生徒作品（氏名を伏せた）の音読（教師）を聞き、その評価を話し合う。
11 それぞれの作品が返却される。

(4) 教材集の作成

教科書の単元や教材の課題を補うために、以下の2種類の教材の開発を試みた。

論理的文章を書くための読む教材

論理的思考力を育成する教材

(5) 論理的文章を書くための読む教材

論理的文章を書くためには、模範となる読む教材が重要な存在となる。国語教科書には8頁を超える論理的文章教材があり、複雑な構成の文章が多い。見開き2頁(800字)程度で、全体像が見渡せると、生徒は書くときの手本にしやすい。

このような考えから、小・中学生が書いた文章を題材にして『国語科・論理的表現力を育成する教材集』（2018年2月）を作成した。その後、中学国語科教員から教材の増加の求めがあり、2019年2月に小学校80編、中学校42編、計122編、「第2版」にまとめた。

中学生のための教材集でありながら、小学校編を置いたのは生徒の実態を踏まえたためである。中学1、2年は自分より下の学年（小学4、5年）の文章を読むと、このような文章だったら自分でも書けると言い、参考にする場面が度々あるようだ。

『国語科・論理的表現力を育成する教材集 第2版』の教材数は次のとおりである。

「小学校編」計80編（1年16、2年15、3年13、4年11、5年13、6年12）

「中学校編」計42編（中学1年14、中学2年14、中学3年14）

(6) 論理的思考力を育成する教材

論理的文章を書くためには、多くの規則がある。その規則の一つ一つは解説より、例文の後、問題を解いた方が指導経験上、効果的であった。18種類の教材を作成し、それらを『国語・論理の教材集』（2019年2月）にまとめた。復習ために小学校編、発展的な学習として高校編を加え、『国語・論理の教材集（小・中・高校編）』（2020年2月）を冊子にした。これらの教材集は、2校の中学校で授業実践を積み重ね、成果と課題等が明らかになりつつある。

『国語・論理の教材集（小・中・高校編）』の目次を示す。

基礎	文
段落	一段落一事項
名前のつけ方	二つの論理
具体と抽象	褒めている言葉
キーワード	論理的思考の組み立て方(小学校～中学3年)
事実が意見か	事実の書き方
考察の書き方	結論の書き方
序論の書き方、題名のつけ方	図・表・グラフの読み方
情報の信頼性	論理的文章の文体
論証の誤り	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 64
2. 論文標題 中・高等学校国語科における論理的文章を書くための教材の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山学院大学教育学会紀要『教育研究』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 64
2. 論文標題 中・高等学校における論理的文章を書くための教材の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山学院大学教育学会紀要『教育研究』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 134
2. 論文標題 中・高等学校の論理的文章を書く指導における評価の技術研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学 言語と文芸	6. 最初と最後の頁 75-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 133
2. 論文標題 論理的文章を「書く」ために読む指導 - 中学校国語科授業の研究実践報告 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国文学 言語と文芸	6. 最初と最後の頁 101～118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 9
2. 論文標題 中学校国語科における論理的文章教材の開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青山学院大学教育人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 33～47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 5
2. 論文標題 中・高等学校の論理的文章の添削・評価の研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山学院大学教職研究	6. 最初と最後の頁 265～275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川祥子	4. 巻 4
2. 論文標題 国語科における論理的文章の新教材の研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青山学院大学教職研究	6. 最初と最後の頁 173～185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校における論理的思考力を育成する教材の開発
3. 学会等名 第137回全国大学国語教育学会仙台大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校・論理的文章を「書く」ための教材の開発
3. 学会等名 第136回全国大学国語教育学会茨城大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校・論理的文章を「書く」指導における評価の技術研究
3. 学会等名 第134回全国大学国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校における論理的表現力を育成する教材開発
3. 学会等名 第135回全国大学国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高校生の文章構成の学習指導研究
3. 学会等名 第132回全国大学国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校における論理的文章の添削・評価の研究
3. 学会等名 第133回全国大学国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川祥子
2. 発表標題 中・高等学校の論理的文章を書く指導における評価の技術研究
3. 学会等名 国文学 言語と文芸の会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	加賀谷 いづみ (kagaya izumi)	北海道札幌市立元町中学校・教諭	
研究協力者	西山 明人 (nishiyama akihito)	東京農業大学第三高等学校附属中学校・教頭	
研究協力者	池田 尚子 (ikeda naoko)	中央大学杉並高等学校・教諭	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力 者	小泉 尚子 (koizumi naoko)	中央大学杉並高等学校・教諭	